

平成23年社会生活基本調査 生活行動に関する結果（鳥取県）

《平成24年7月13日総務省統計局公表資料による》

● 社会生活基本調査とは

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的とし、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。平成23年調査は8回目に当たる。

調査対象は、全国の指定調査区の中から選定した約8万3千世帯（鳥取県では約1,500世帯）に居住する、10歳以上の世帯員約20万人を対象に実施。

今回公表する結果は、自由時間における主な活動に関する結果である。

ここでは、主な集計結果について要約していますが、詳細データについては総務省統計局ホームページ(<http://www.stat.go.jp>)をご覧ください。

● 今後の結果公表予定

生活時間の配分に関する結果（平成24年9月及び12月公表予定）

● 用語の解説

行動者数…過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数

行動者率…10歳以上人口に占める行動者数の割合（%）

※ 鳥取県の10歳以上推計人口は516千人

1 学習・自己啓発・訓練

行動者数は163千人、行動者率は31.5%で5年前より0.5ポイント上昇。行動者率は全国平均より3.7ポイント低く、全国第25位（前回第32位）。種類別では「英語」「介護関係」などで上昇。

2 ボランティア活動

行動者数は175千人、行動者率は33.9%で5年前より0.6ポイント低下。行動者率は全国平均より7.6ポイント高く、全国第4位（前回第1位）。種類別では「災害に関係した活動」「国際協力に関係した活動」を除くすべての種類で全国平均を上回る。

3 スポーツ

行動者数は302千人、行動者率は58.5%で5年前より5.1ポイント低下。行動者率は全国平均より4.5ポイント低く、全国第36位（前回第26位）。行動者率が最も高いのは「ウォーキング・軽い体操」。

4 趣味・娯楽

行動者数は416千人、行動者率は80.6%で5年前より2.2ポイント低下。行動者率は全国平均より4.2ポイント低く、全国第35位（前回第26位）。男女ともに行動者率が最も高いのは「CDなどの音楽鑑賞」。

5 旅行・行楽

行動者数は353千人、行動者率は68.4%で5年前より3.9ポイント低下。行動者率は全国平均より4.8ポイント低く、全国第33位（前回第28位）。男女ともに行動者率が最も高いのは「行楽（日帰り）」。

1 学習・自己啓発・訓練

行動者率は31.5%で5年前より上昇。種類別では「英語」「介護関係」などで上昇。

- (1) 過去1年間に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は163千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は31.5%となっており、平成18年と比較すると0.5ポイント上昇している。
- (2) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を全国平均（35.2%）と比較すると、3.7ポイント低くなっており、全国で25位となっている。（前回32位）
- (3) 行動者率を種類別にみると、「芸術・文化」「英語」「介護関係」などで上昇している。男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が12.2%と最も高く、次いで「芸術・文化」となっている。女性は「家政・家事」が12.0%と最も高く、次いで「芸術・文化」となっている。

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率(平成18年、23年)鳥取県

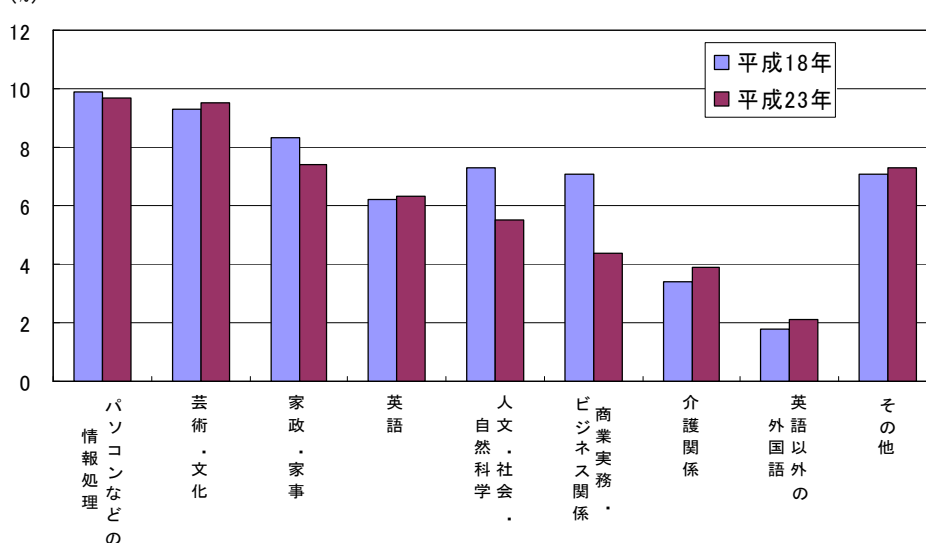
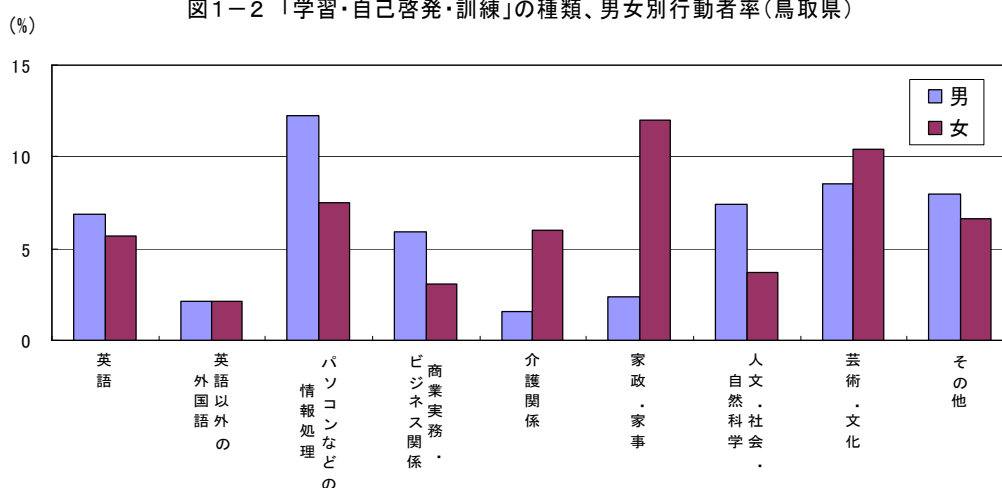


図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率(鳥取県)



2 ボランティア活動

行動者率は33.9%で5年前より低下するが、全国平均を上回り全国第4位。

- (1) 過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は175千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は33.9%となっており、平成18年と比較すると0.6ポイント低下している。
- (2) 「ボランティア活動」の行動者率を全国平均（26.3%）と比較すると、7.6ポイント高くなっており、全国で4位となっている。（前回1位）
- (3) 種類別に全国と行動者率を比較すると、「災害に関係した活動」と「国際協力に関係した活動」を除くすべての種類で全国平均を上回っている。
- (4) 行動者率を種類別にみると、「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」で上昇している。

図2-1 「ボランティア活動」の種類別行動者率(鳥取県、全国)

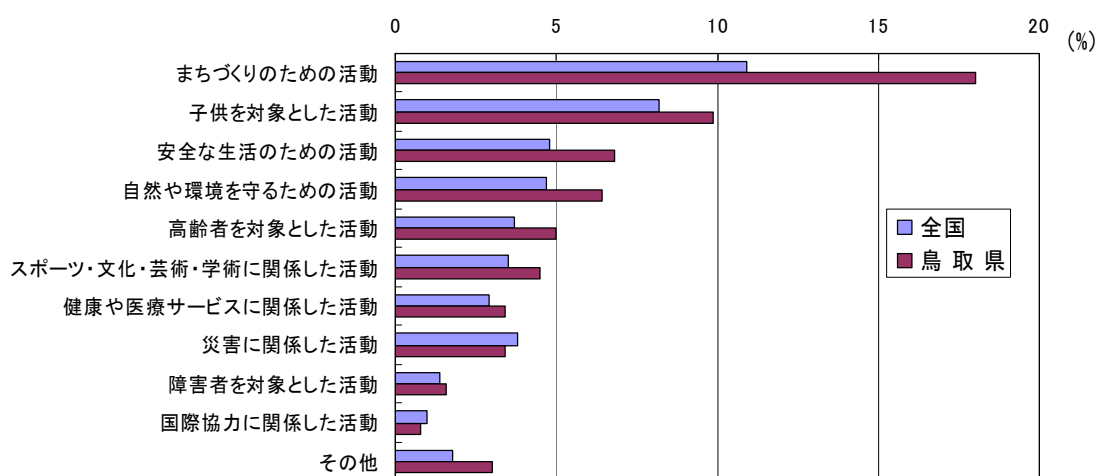
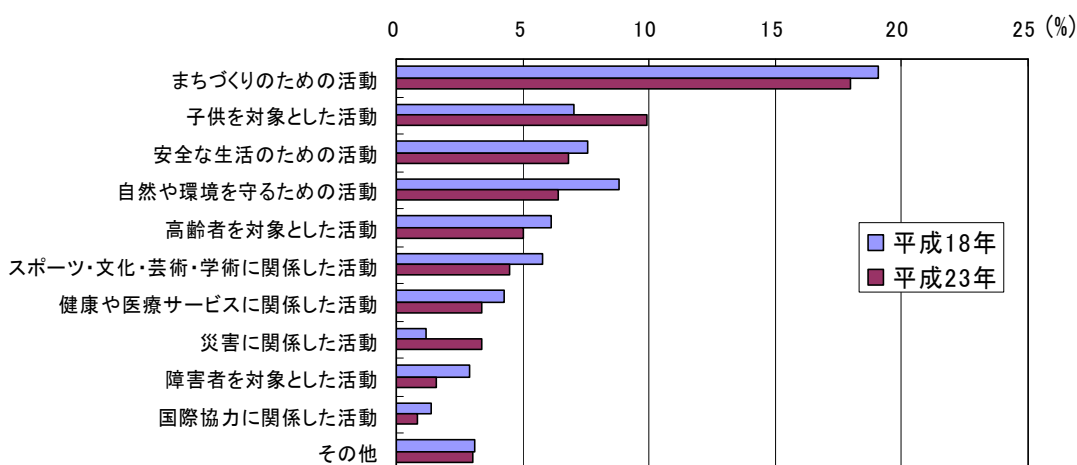


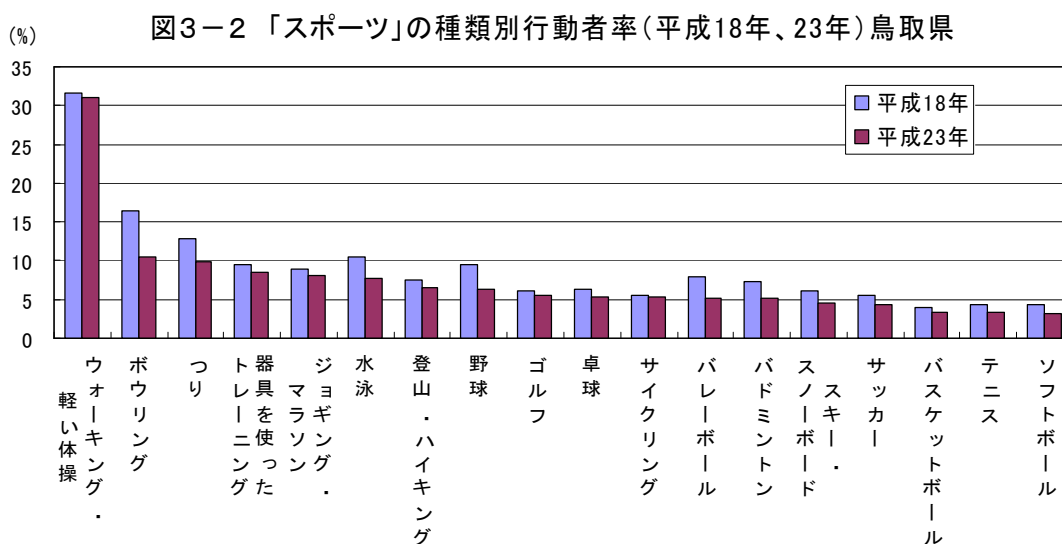
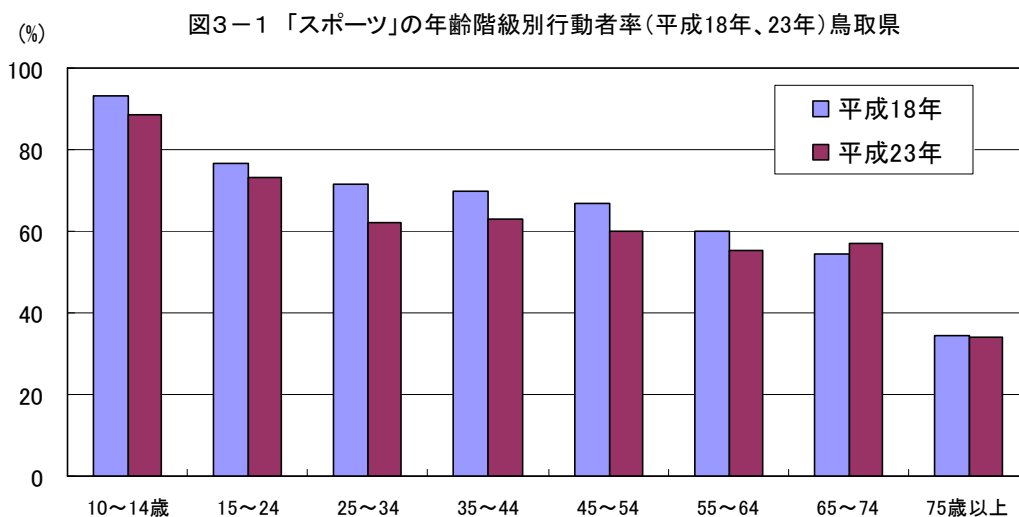
図2-2 「ボランティア活動」の種類別行動者率(平成18年、23年)鳥取県



3 スポーツ

行動者率は58.5%で5年前より低下。「ウォーキング・軽い体操」は55歳以上で上昇。

- (1) 過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は302千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は58.5%となっており、平成18年と比較すると5.1ポイント低下したが、65～74歳では上昇している。
- (2) 「スポーツ」の行動者率を全国平均（63.0%）と比較すると、4.5ポイント低くなっており、全国で36位となっている。（前回26位）
- (3) 行動者率を種類別にみると、全体的に低下している。「ウォーキング・軽い体操」が31.0%と最も高くなっている。



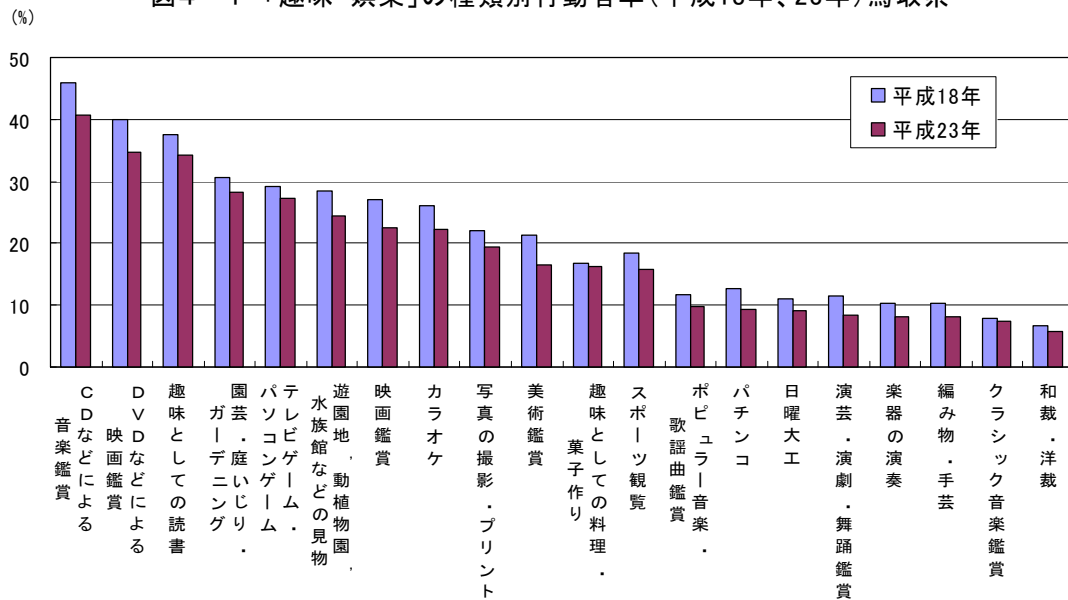
注) 行動者率が3%以上の種類を表章。

4 趣味・娯楽

男女ともに行動者率が最も高いのは「CDなどの音楽鑑賞」

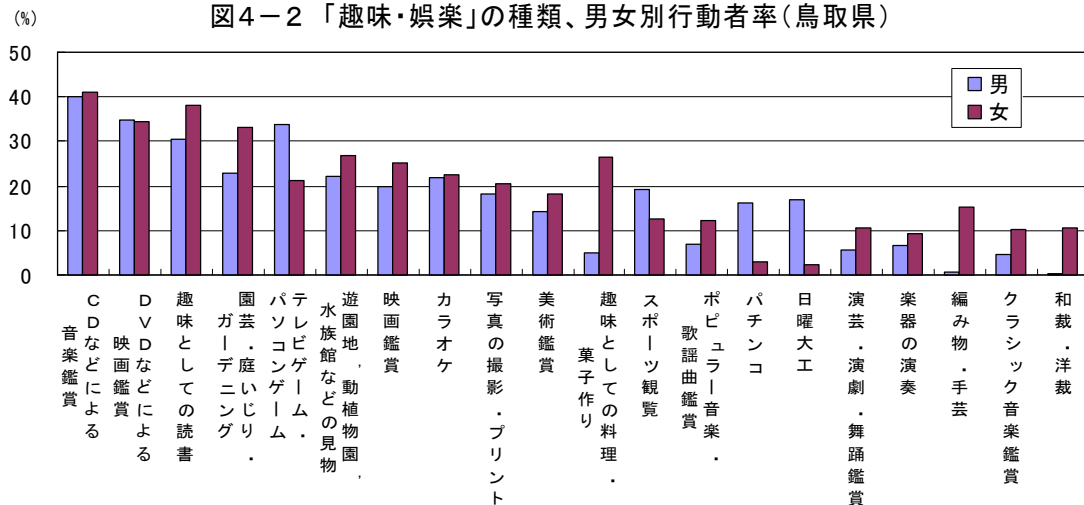
- (1) 過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は416千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は80.6%となっており、平成18年と比較すると2.2ポイント低下している。
- (2) 「趣味・娯楽」の行動者率を全国平均（84.8%）と比較すると、4.2ポイント低くなっており、全国で35位となっている。（前回26位）
- (3) 行動者率を種類別にみると、ほとんどの種類で低下している。
男女別にみると、男女とも「CDなどによる音楽鑑賞」が男性40.2%、女性41.2%と最も高く、次いで男性は「DVDなどによる映画鑑賞」、「テレビゲーム・パソコンゲーム」の順となっており、女性は「趣味としての読書」、「DVDなどによる映画鑑賞」の順となっている。

図4-1 「趣味・娯楽」の種類別行動者率(平成18年、23年)鳥取県



注) 行動者率が上位20の種類を表章。

図4-2 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率(鳥取県)



注) 行動者率が上位20の種類を表章。

5 旅行・行楽

男女ともに行動者率が最も高いのは「行楽（日帰り）」

- (1) 過去1年間に何らかの「旅行・行楽」に行った人は353千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率）は68.4%となっており、平成18年と比較すると3.9ポイント低下している。
- (2) 「旅行・行楽」の行動者率を全国平均（73.2%）と比較すると、4.8ポイント低くなっており、全国で33位となっている。（前回28位）
- (3) 行動者率を種類別にみると、「行楽（日帰り）」が54.3%、観光旅行では国内が35.7%、海外が4.4%となっている。これを平成18年と比較すると、「業務出張・研修・その他（海外）」を除き、すべての種類で低下している。
男女別にみると、男女ともに「行楽（日帰り）」が最も高くなっている。また、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、すべての種類で女性の方が高くなっている。

図5-1 「旅行・行楽」の種類別行動者率(平成18年、23年)鳥取県

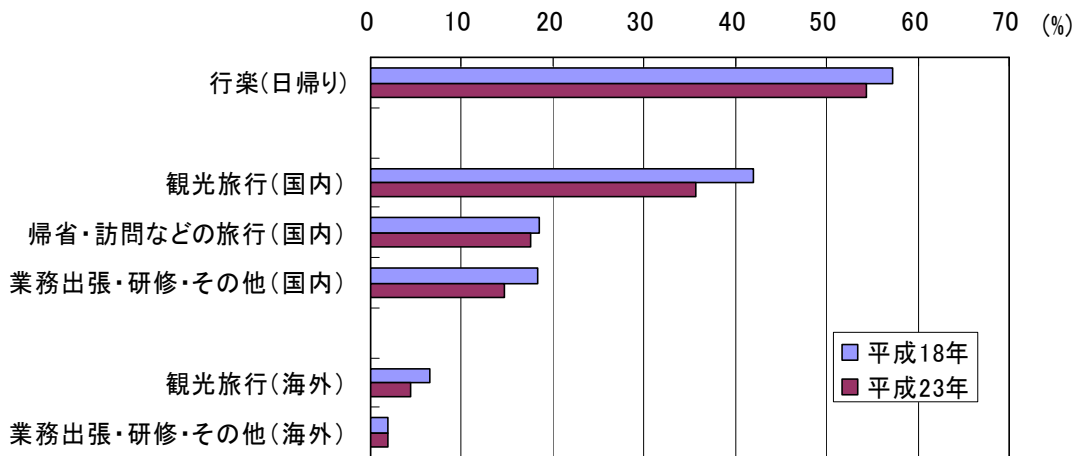


図5-2 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率(鳥取県)

